

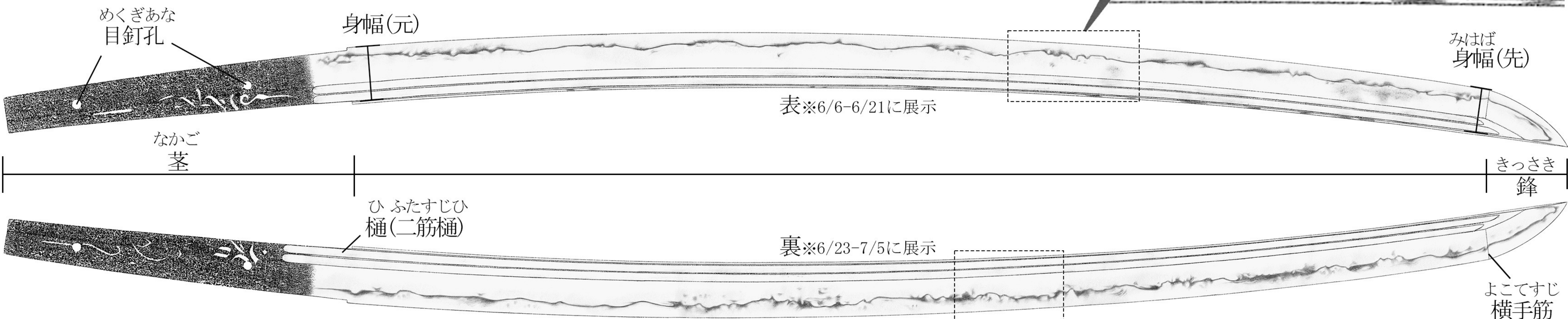
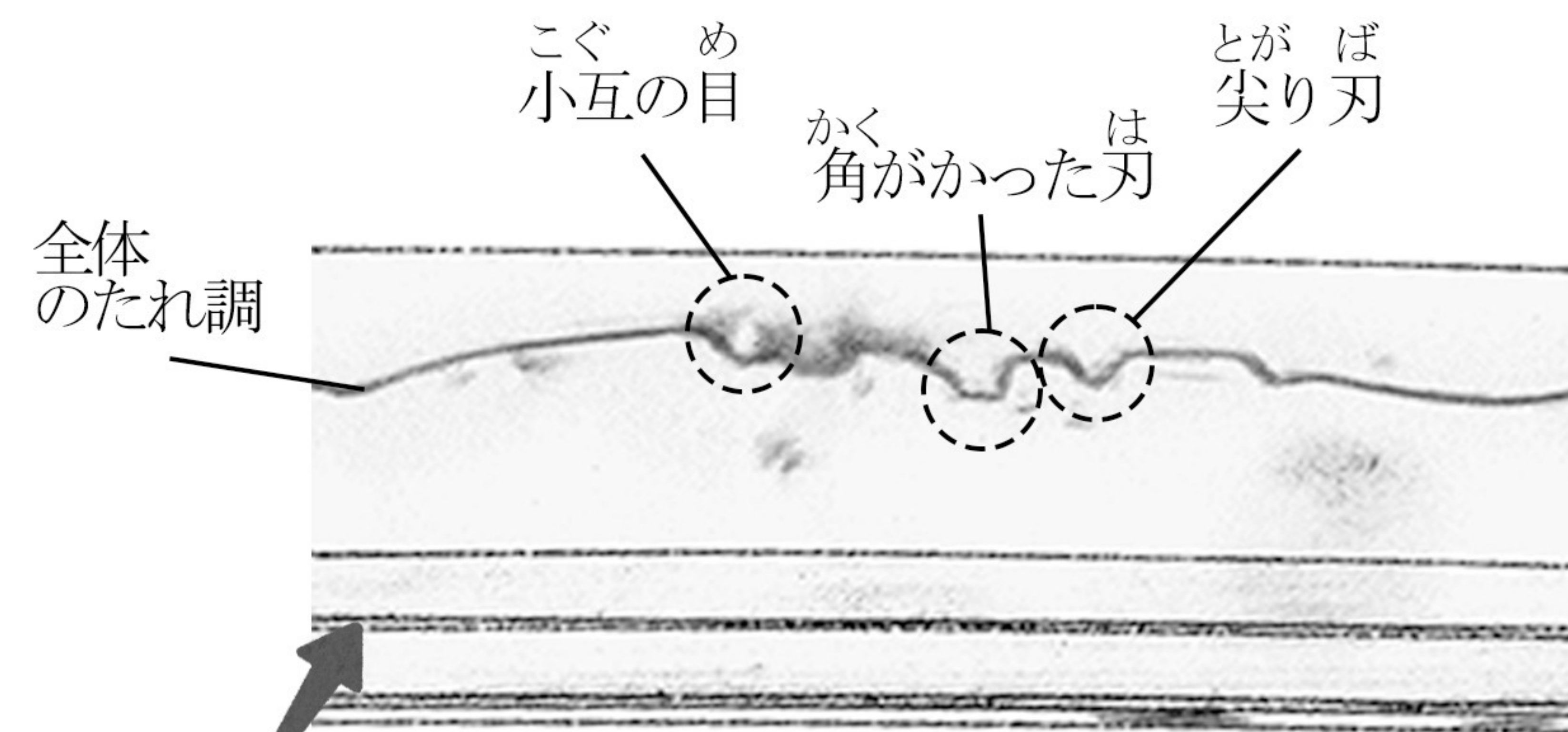
株式会社ニトロプラス 蔵
展示期間2026年6/6(土)~7/5(日)

見どころ

姿 身幅が広く大鋒に結ぶ、大磨上ながら南北朝時代の特徴を示す豪壮な姿。

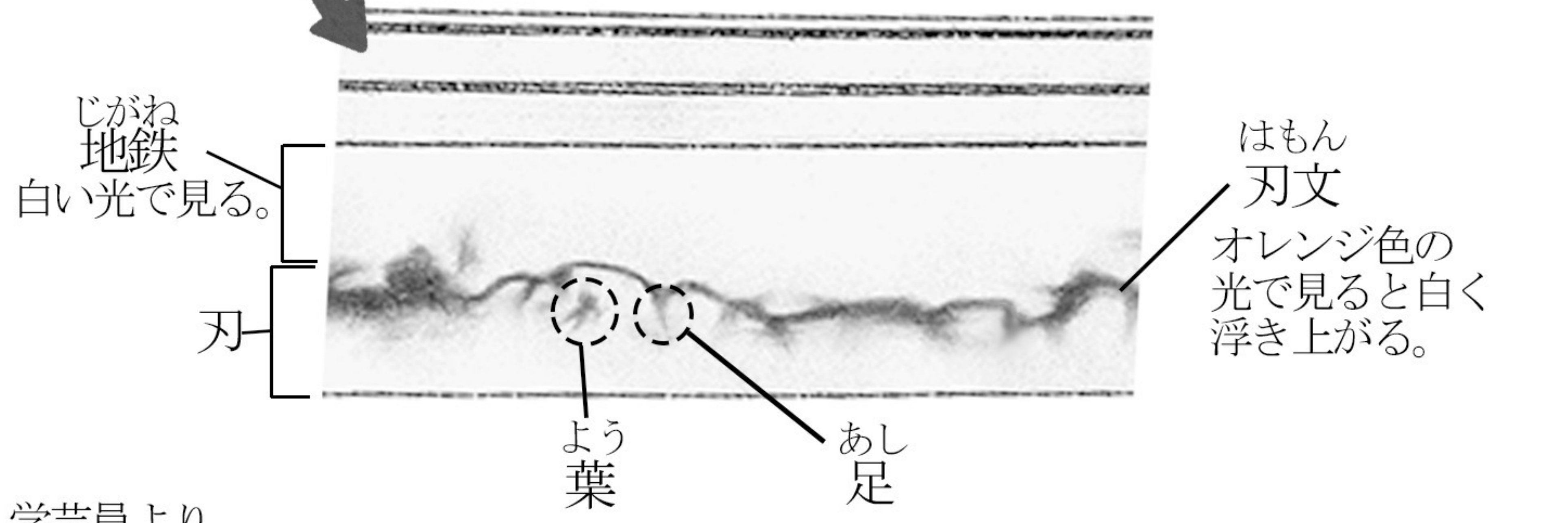
地鉄 板目に杓交じり、よく錬れた肌合に地景が入る。

刃文 のたれを基調に小互の目・角がかった刃・尖り刃などが交じり、足・葉が入る。
裏は中程より上は乱れて変化が強調され、表裏で異なった様相である。



用語解説

- 姿 刀身全体の形のこと。体配とも言う。
姿からは、その刀剣が制作された時期がわかる。
- 地鉄 刀身のうち、刃（焼きが入り硬くなっている、物を斬る側）ではない部分のこと。制作時に折り返して鍛錬することによって木目のような模様が浮かび上がっている。
- 刃文 刃と地鉄の間に白く浮かび上がる模様のこと。押形(刀の姿と刃文を写し取った絵)では黒い墨で表される。



学芸員より
第29回特別重要新指定展では、貞宗に極められた別作品が展示されています。ぜひ見比べてみてください。